通算第９７号

防衛研究所ニュース　２００６年２月号

“NIDS NEWS”

防衛研究所企画室編集（03−3713−5912）

・・・・・２００６年１月の主な出来事・・・・・

《日米テレビ会議の開催》

１月１９日、防衛研究所と米国防大学国家戦略研究所（ＩＮＳＳ）との間で日米テレビ会議が行われました。本会議は、我が国にとって戦略的に重要な影響を与える諸課題について、テレビ会議システムを用いて意見交換を実施し、平成１５年度に開始されて以降、今回で７回目となります。

今回は中露関係をテーマとして取り上げ、防研第５研究室主任研究官　兵頭慎治が「中露戦略的パートナーシップの将来と東アジアの戦略環境」、ＩＮＳＳ主任研究員　ユジーン・ルーマー博士が「ロシア、中国と中央アジア」についてそれぞれ報告しました。続いて防研第１研究室長　坂口賀朗が中央アジアにおける米国の関与の見通しと、それが同地域への中露のプレゼンスに与える影響についてコメントした後、ＩＮＳＳ主任研究員　フィリップ・ソーンダズ博士が中露それぞれの中央アジア政策の特徴および中露戦略パートナーシップの見通しについての意見を述べました。その後、中露の内政・対外政策の問題点、中露および中央アジアに対する日米の戦略等について活発な意見交換が行われました。

《宋 永仙（ソン　ヨンソン）韓国国会議員の訪問》

１月２６日、韓国国会議員　宋 永仙 氏以下４名が意見交換のために防衛研究所を訪問しました。

宋議員は、安全保障・外交・国防の諸問題に関して日本の研究機関や議員等と意見交換を行うために来日し、１月２５日から２８日まで滞在しました。

河尻所長表敬の後に、北東アジアの安全保障環境、日韓協力関係等についての意見

宋永仙議員（右）と河尻所長

交換が行われました。

宋氏は国会議員になる前は、防研の韓国における研究交流のカウンターパートである韓国国防研究院（KIDA）の安全保障センター所長で、今回の訪問は旧交を温める機会にもなりました。

《デンマーク国防省国防情報庁職員の訪問》

１月２３日、デンマーク国防省国防情報庁地域戦略分析部長　アーネ・ビアリング氏以下５名の訪問団が、意見交換のために防研を訪れました。

国防情報庁はデンマーク国防省内にある１０の庁のうちの１つであり、同情報庁からの訪問は初めてです。

河尻所長表敬中のビアリング氏

河尻防研所長表敬の後に実施された意見交換において、東アジアにおける中国、日本、米国、ＥＵ、インド、韓国、オーストラリア各国間の戦略関係や協力関係、東アジアにける経済改革と成長等について議論が行われました。

《国際交流基金関西国際センター外交官・公務員日本語研修生の訪問》

意見交換の模様

１月２６日、国際交流基金関西国際センターの日本語研修団一行、３９カ国４１名が意見交換のために防衛研究所を訪問しました。

国際交流基金関西国際センターは、様々な国の公務員や外交官に対し、９ヵ月にわたり日本語や日本事情の研修

を実施しています。同研修団の防研訪問は平成１５年に始まり、今回で４回目となります。

意見交換会では、防衛研究所側から日本の防衛政策についてブリーフィングを行った後に、研修団と防研側の参加者との間で、日本の安全保障の課題等について議論が交わされました。

・・・・・１月の主な研究会・・・・・

《朝鮮半島研究会の実施》

１１月１１日および１２日、フランス国際関係研究所アジアセンター部長　バレリー・ニクェ氏を招いて、「北朝鮮核問題と東アジアの国際環境」の題目で朝鮮半島研究会が実施されました。

研究会の初日は、まずニクェ部長が「北朝鮮核問題と中国―欧州からの視点―」のテーマで、中国の６カ国協議における意図や、北朝鮮問題に対する中国の立場について発表しました。続いて、防研図書館長　武貞秀士が「北朝鮮核問題と中国―日本からの視点―」のテーマで発表し、中国の政策目標等を分析しました。その後の質疑応答では、北朝鮮の核保有目的や朝鮮半島有事の際の中国の対応等について、議論が行われました。

２日目はニクェ部長の「欧州から見た中国の地域・グローバル戦略と欧州の対中関係」と題する発表で始まり、その中で同部長は中国の地域化プロセスへの参加についての様々な見解を示しました。続いて、防研第２研究室主任研究官　川勝千可子から、欧州から見た中国の世界観等についてのコメントと質問がありました。最後に質疑応答が行われ、「中国の時間稼ぎ」の問題や、中国による冒険主義的行動の可能性等についての議論が実施されました。

・・・・・第６９回「史料公開ニュース」　図書館・・・・・

このコーナーでは、防衛研究所の所蔵史料のうち、公開史料を紹介しています。今月は､日露戦争時期の陸海軍関係文書及び満州･支那における陸軍史料等の紹介です。

１　「南山戦闘詳報」

『野戦砲兵第１４連隊第１大隊』（明治３７～３８年）

南山、遼陽、沙河、奉天等を転戦した野戦砲兵第 14 連隊第１大隊の戦闘詳報であり、当時の戦闘の様相を知ることができる史料です。射撃要図・損耗表の類が添付されているものもあります。

２　「内外蒙境界に関する考察」

『矢野光二』（昭和１５年頃）

ノモンハン事件勃発翌年に内外蒙境界の実情を明らかにした資料であり、限定４０部です。５つの地区について記述があるとともに、内外蒙境界の現況に基づく対策及び施設について記述があります。

３　「都山附近ニ於ケル戦闘詳報」

『野砲兵第２３連隊第８中隊桑原小隊』（昭和１５年）

昭和１５年７月２日の都山附近に於ける戦闘について記録した小隊レベルの戦闘詳報です。戦闘経過の概要をはじめ、敵の兵力、彼我損害の概要、鹵獲品、射耗弾、武功抜群なる者、本戦闘における教訓等について記述があります。

詳しくは、防衛研究所（史料閲覧室）のウェブサイト＜www.nids.go.jp＞、第６９回「史料公開ニュース」をご覧下さい。

※　記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。
なお、記事の無断引用はお断りします。
防衛研究所企画室
専用線 ： ８－６７－６５２２、６５８８
外　線 ： ０３－３７１３－５９１２
ＦＡＸ ： ０３－３７１３－６１４９
E-mail ： nidsnews@nids.go.jp
※　防衛研究所ウェブサイト：http://www.nids.go.jp